

P 32

疼痛緩和作用を有する新規な 健康補助食品 SRD-P001 の開発

- 小松靖弘、三本木照平(サン自然薬研究所)
工藤千秋(くどうちあき脳神経外科クリニック、
東京脳脊髄研究所)

[目的]加齢に伴い関節痛を訴える人が多く、QOL の観点から疼痛の改善が求められている。現在、本症状の治療には消炎鎮痛剤が適用されるが、安全で、長期連用に耐え、QOL の改善が期待できる新規な健康補助食品の開発は意義あるものとする。SRD-P001 は古来より疼痛緩和があるとして用いられている柚子種子、また関節などムコ多糖類からなる結合組織を正常に維持する上で重要な役割を果たすとされるグルコサミンを主成分とし、更に鎮痛、消炎作用を示す西洋、東洋ハーブを配合した新規な健康補助食品で、今回本製品のヒトにおける効果について検討したので報告する。

[方法]SRD-P001 錠剤、顆粒剤を、関節痛のある患者を無作為に選出して同意の上、本アンケート調査への参加を依頼した。摂取する量は1回に 2.5g (10 錠)、朝晩の1日 2,3 回とした。痛みの改善の程度は疼痛スコアを設定し、改善の程度は自己または医師の判断とした。また、好ましくない反応についても調査した。

[結果]アンケート調査では 22 例中 18 例に疼痛の改善が認められたが、その中で 2 例は摂取後、2 日、3 日と疼痛の悪化を示し、その後、1 週間の摂取期間終了時には疼痛緩和作用の発現が確認された。4 例は疼痛の改善が認められなかった。顆粒剤の疼痛緩和作用は 4 症例について実施され、1 週間の観察期間内にほとんどの症例に疼痛緩和効果の発現を認め、高い有効性が示された。好ましくない作用についても調査を行なったが、特に身体異常を訴える例は見られなかった。

[結論]アンケート調査、臨床研究の結果から SRD-P001 は腰痛を始めとする関節痛の緩和に有用な効果を発揮する事が示された。また、観察期間中、重篤な副作用は見られず、安全性の高い製品と考えられた。